

プレスリリース

川崎市立川崎高校福祉科でワークショップ 川崎市立川崎総合科学高等学校科学科で出前授業

～未来のことには、未来の人もまきこんで～

- 11/27(水)午後 2:00～3:45 に川崎市立川崎高校（川崎区中島町）にて、同校福祉科 3 年生を対象としたワークショップを開催。取材歓迎。
- 11/29(金)午前 8:55～10:45 に川崎市立川崎総合科学高校（幸区小向仲野町）にて、同校科学科 2 年生対象とした出前授業を開催。取材歓迎。
- プロジェクト CHANGE の意思を継承して、ケアデザインの実践フェーズを担う人材の育成と、ケアコンピテンシー（ケアする力）の醸成。
- 工学と連携することができるケア従事者と、ケア現場の知識とマインドを持つ理工学者の育成。
- 「未来は定められた運命ではなく、自分たちが良い方向に導くもの」ということへの気づきを与え、少子高齢化の課題を自分事として捉えることの必要性を説く。

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

文部科学省・科学技術振興機構が主宰する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」川崎拠点（プロジェクト CHANGE：プロジェクトリーダー 一木隆範）は、本年 9/11 に川崎市立川崎高校（校長：岩木正志 先生、所在地：川崎市川崎区中島町）にて「少子高齢化によるケア領域の課題」をテーマとした出前授業を行いました。対象は、同校福祉科 3 年生 34 名。高齢化に伴い入院加療を必要とする方々が増えている現状に反して、少子化により医療従事者が不足していく状況の中で、もしこのまま 20 年が過ぎたらどんな暮らしが待ち受けているだろうか？ということをご想像して頂きました。その続きとして、20 年後の理想の暮らしを描き、その実現のためにどんな道具や仕組みがあったらいいだろうかグループで考えるワークショップを 11/27 午後 2 時より同校で行います。本プロジェクトの研究者や看護師がファシリテータとして参加し、高校生の意見を引き出します。

また、川崎市立川崎総合科学高校（校長：濱野雄功 先生、所在地：川崎市幸区小向仲野町）では、科学科の 2 年生を対象とした出前授業を行います。同科からは理学・工学部に進学する生徒が多く、進学後も「看民工学（民をみる工学）」という工学があることを印象付ける目的で、本プロジェクトの若手工学研究者および看護学研究者が企画を立てています。こちらも来年 3/7 にワークショップを予定しており、まだ遠い未来の話

で、少子高齢化の課題を他人事として捉えている高校生たちに、このままだと暮らしはどうなる？未来を良くするのは自分たちであることを気づかせる目的があります。

医療従事者の多くを占めるケア従事者（看護師、介護士など）においては特に、過重労働が深刻化することで早期離職に繋がる悪循環が生まれています。川崎市の人口 10 万人あたりの看護職員数は 791.2 人（R4 年度厚労省衛生行政報告による。全国平均は 1,049.8 人）と全国的にかなり低く、プロジェクト CHANGE に参画する川崎市看護協会（会長：堀田彰恵 氏、所在地：川崎市中原区今井上町）では、「過重労働は従事者の健康的生活を蝕み離職の原因になるだけでなく、医療事故に繋がるリスクを高めるため市民の安全を守る上でも深刻な問題です（堀田会長）」ということから人材確保と労働環境の改善を最重点課題として捉えています。

プロジェクト CHANGE では川崎市看護協会と強力なタッグを組み、①病院における看護師負担の軽減と②地域・在宅医療における 24 時間みまもりを可能とする道具やシステムの研究開発を進めており、今後益々深刻化する少子高齢社会におけるケアデザインを実践しようとしています。このマインドを引き継いで、実装フェーズを担う次世代人材の育成は、本プロジェクトのゴールである「レジリエント健康長寿社会の実現」に不可欠であり重要な活動の一つとして位置付けられています。

今年度は、4 月 17 日に Horizon Japan International School（横浜市神奈川区）の Grade 10 Students（高校 1 年生に相当）を。8 月 8 日に、中高一貫の女子校である私立洗足学園（川崎市高津区）の高校 1 年生から理系志望の選抜生徒をインターンシップ生として受け入れ、それぞれ、研究者との交流会や体験学習を行いました。これらの高校生をプロジェクト CHANGE では、Future Opinion Board (FOB) として位置付け、12/13 に予定している CHANGE シンポジウムでは、高校生たちにも登壇頂き、今の若者の感性で、プロジェクト CHANGE の活動に対する意見や感想を伺います。ファシリテータには、高校生の考え方に精通している大手予備校の化学講師、坂田 薫先生にお願いしました。

プロジェクト CHANGE 第 3 回シンポジウム：

https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/event_3rd_symposium.html



記

川崎市立川崎高校福祉科3年生を対象としたワークショップ

日時：2024年11月27日（水曜日）14:00-15:45

場所：川崎市立川崎高校（正面玄関ホールに13時半集合をお願いします）

<https://www.kaw-s.ed.jp/kawasaki-hs/company1.html>

対象：同校福祉科3年生（34名）

ファシリテータ：松元 亮 東京科学大学教授ら研究者3名、川崎市看護協会から看護師3名

川崎市立川崎総合高校科学科2年生を対象とした出前授業

日時：2024年11月29日（金曜日）8:55-10:45

場所：川崎市立川崎総合科学高校（正面玄関ホールに9時半集合をお願いします）

https://www.kst-h.ed.jp/kst_hp/access.html

対象：同校科学科2年生（40名）

講師：高岡茉奈美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 特任助教
神田循大 川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター 特任研究員

イベント実施責任者：

島崎 眞（川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター コミュニケーションマネージャー・
プロジェクト CHANGE 副プロジェクトリーダー）

取材申込：11/25 までに、以下の項目を記したメールにてお申込みください。

- ① 氏名
- ② 所属・媒体名
- ③ 当日連絡の取れる電話番号
- ④ 希望する取材先（高校名）

E-mail 送付先: iconm-pr@kawasaki-net.ne.jp

公益財団法人川崎市産業振興財団について

川崎市の100%出捐により昭和63年に設立され、川崎市内及び周辺地域の産業経済の発展に寄与すること、また、先端的な医療分野、薬学分野等における研究開発の推進等により 医療・福祉の向上などを目的としています。行政や関係機関、各拠点と連携し、川崎市産業振興会館を市内中小企業・ベンチャーの支援拠点として位置づけ、経営支援強化をはじめ、新産業・新技術の創出支援など、産業振興に関わる諸事業に積極的に取り組むと同時に、中小企業・ベンチャー等の抱える課題の解決に向けて、「総合的な支援サービスの提供」に注力しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と 実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) について

大学等が中心となって 未来のあるべき社会像 (拠点ビジョン) を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。JSTの既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」ともいいます。知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により、大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。今後、「ウィズ/ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、我が国が、現在そして将来直面する課題を解決し、世界に伍して競争を行うためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官の共創 (産学官共創) により構築することが必要となります。

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

プロジェクト CHANGE (COI-NEXT 川崎拠点) について

拠点ビジョンとして「医工看連携が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」を掲げ、そのためのターゲットを4つ策定しました。①みまわり技術でどこでもいつでも診断。②長寿メドテックで安全・安心な在宅医療。③老化制御で健康寿命延伸。④長寿イノベーションを加速する社会基盤。そして、これらをターゲットとした研究開発テーマを5つ立ち上げ、革新的な研究開発が進められています。①健康みまわりセンシングシステムの開発。②生体 I/O デバイスによる優しい医療介入技術の開発。③老化を診断・治療するスマートナノマシンの開発。④長寿イノベーションの実現に向けた市民啓発と実証フィールド構築。⑤長寿イノベーションの社会実装。血液検査など医療機関に行かなくては受けられない検査や診断をできる限り家庭で、医師・看護師でなくても誰もができるための道具や仕組みを創出し、また、健康寿命を損なう組織や筋肉の老化を抑制することで健康長寿社会の実現を目指します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

川崎市立川崎高校福祉科について

川崎市初の公立中高一貫校である同校は、川崎市立川崎高等女学校を前身とし、普通科に加えて生活科学科と福祉科を全日制に持つ県内でも大変ユニークな高校です。福祉科では、①人格を育てるための高等教育、②ノーマライゼーション等の考えや福祉マインドを広く学ぶ福祉教育、③介護のスペシャリストを目指した福祉専門教育、④社会福祉、地域社会のリーダーを目指したリーダー教育を教育の柱とし、様々な人々とともに生きる豊かな人間関係を育み、他人を思いやる心の醸成と、人間的な成長を目指しています。

<https://www.kaw-s.ed.jp/kawasaki-hs/custom1.html>

川崎市立川崎総合科学高校について

工業科の課程 5 科と理数科の課程 1 科（科学科）を併せ持つ特色のある高等学校です。

工業科の各学科では専門性の高い授業が学べるようになっています。2 年次からは資格取得・就職等をめざすエンジニア・クリエイター系、大学・短大・専門学校に進学をめざす進学サポート系、それぞれの進路にあった学習をします。また、体験学習や課題研究を通して判断力・実践力を高めるとともに、時代の変化に主体的に対応できる人間の育成をめざしています。

科学科は川崎・横浜市内公立高校のなかで、最初に設立された理数科の課程です。

理工系難関大学進学を目標に、英語・数学・理科の授業時間を豊富に確保しています。

http://www.kst-h.ed.jp/kst_hp/index.html

2024 年 11 月 19 日